第 17 回日本在宅医学会もりおか大会　**一般・指定演題**

（研究報告）抄録用紙

演題名 （全角 80 字以内）	在宅がん終末期患者において、コルチコステロイド投与による経口摂取量の改善の有無は予後予測に有用である
演者名	今永光彦１）、外山哲也１）、近藤秀一１）、木村琢磨１）２）
所属	１）　国立病院機構東埼玉病院総合診療科 ２）　北里大学医学部総合診療医学

研究方法 （右から番号を選び NO.欄に番号をご記入ください）	1.症例報告　2.症例シリーズ報告　3.コホート研究 4.症例対照研究　5.調査研究　6.介入研究　7.二次研究 8.質的研究　9.その他研究	NO. 3

背景

在宅がん終末期患者において、予後予測を行うことは患者・家族支援のうえで重要である。しかし、在宅がん終末期患者において、使用可能な予後予測ツールは少ない現状である。

目的

在宅がん終末期患者において、コルチコステロイド投与による経口摂取量の改善の有無が、予後予測に有用であるかを検討する。

方法

2009 年 9 月～2014 年 8 月に訪問診療を開始した在宅がん終末期患者 155 名のうち、経口摂取量低下を認め、コルチコステロイド投与を開始しつつ経口摂取のみで経過をみた 69 例を対象に後ろ向きに検討を行った。経口摂取量の改善を「コルチコステロイド開始後の次の訪問時に、カルテ上経口摂取量の増加を認めていた場合」と定義して、コルチコステロイド投与開始からの生存期間を、コルチコステロイド投与開始による経口摂取量の改善の有無別にカイ二乗検定で、比較検討した。

結果

コルチコステロイド投与開始からの平均生存期間は 33.8±32.6 日で、コルチコステロイド投与開始による経口摂取量の改善「あり」群は 35 例(50.7%)、「なし」群は 34 例(49.3%)であった。改善「あり」群の平均生存期間は 48.8±34.7 日で、改善「なし」群の平均生存期間は 18.3±22.3 日と比較して有意に生存期間が長かった（P=0.0001)。コルチコステロイド投与による経口摂取量の改善がない場合、3 週間以内に死亡する確率は感度 77.1%、特異度 79.4%、陽性的中度 79.4%、陰性的中度 77.1%であった。

考察

「経口摂取量低下を認め、コルチコステロイド投与を開始する時期」に明らかな基準がなく、臨床的判断であるという限界があるが、在宅がん終末期患者において、コルチコステロイド投与による経口摂取量の改善の有無は、3 週間以内の予後を予測するうえで、ある程度有用である可能性が示唆された。